
全国の女性関連施設を支援する
中間支援組織としての

全国女性会館協議会

NPO法人全国女性会館協議会常任理事
(財)横浜市男女共同参画推進協会理事・統括本部長
桜井陽子

概要

沿革	1956年発足(任意団体)		
	2005年機構改革(親睦団体⇒中間支援組織)		
	2008年NPO法人		
会員数	施設会員	89館	
	公設公営	30館	全国規模 5館
	公設民営	44館	都道府県規模 41館
	民設民営	15館	政令市規模 20館
			市町村規模 23館

全国女性会館協議会の事業

- I 研修事業
 - II 情報事業
 - III 相談・コンサルティング事業
 - IV 全国大会
 - V 助成事業
 - VI 調査研究事業
-

I 研修事業①

1 ブロック研修(2007年6月～2008年1月)

共通テーマ:地域におけるネットワーク形成

例:地域の社会資源との連携・協働

北海道・東北ブロック	エルソーラ仙台
関東・甲信越ブロック	東京ウィメンズプラザ
東海・北陸ブロック	サンフォルテ(富山県)
関西ブロック	ドーンセンター(大阪府)
中国・四国ブロック	コムズ(松山市)
九州ブロック	アバンセ(佐賀県)

I 研修事業②

2 ブロック研修(2008年5月～2008年2月)

共通テーマ:女性関連施設における評価

北海道・東北ブロック	アピオあおもり(青森市)
関東・甲信越ブロック	ぴゅあ総合(山梨県)
東海・北陸ブロック	アイセル(静岡市)
関西ブロック	ドーンセンター(大阪府)
中国・四国ブロック	カリエンテ山口(山口県)
九州ブロック	パレア(熊本県)

I 研修事業③

3 女性関連施設管理職・団体リーダーのための 男女共同参画推進研修(国立女性教育会館)

共催: ①企画協力

②事例、講師の推薦

③講座の担当

連携・協働のワークショップ

評価に関する調査報告等

④自主企画: 指定管理者時代の人材
育成(キャパシティ・ビルディング)

Ⅱ 情報事業

- 1 ホームページによる情報提供
女性関連施設のスタッフ募集情報等
 - 2 メーリングリストの運営
 - 3 ブックレットの発行『豊かな国の女性の貧困』
 - 4 会員館のダイレクトリ作成
-

IV 全国大会

第52回全国大会

日程：2008年11月6日・7日

場所：アバンセ（佐賀県立女性センター）

テーマ：前進する女性関連施設～“支援”をつなぐ

基調講演 住田裕子弁護士

事業企画コンテスト／ホームページコンテスト

各地女性関連施設の情報交換

会員館対象の相談会

VI 調査研究事業

文部科学省委嘱 1997年度～2002年度
「女性関連施設に関する総合調査」

国立女性教育会館委託 2007年度
「女性関連施設における自己評価に関する調査」



全国女性会館協議会 2008年度
「女性関連施設における評価基準の開発」

V 助成事業

会員館を対象に助成事業を実施

助成企業：マイクロソフト社

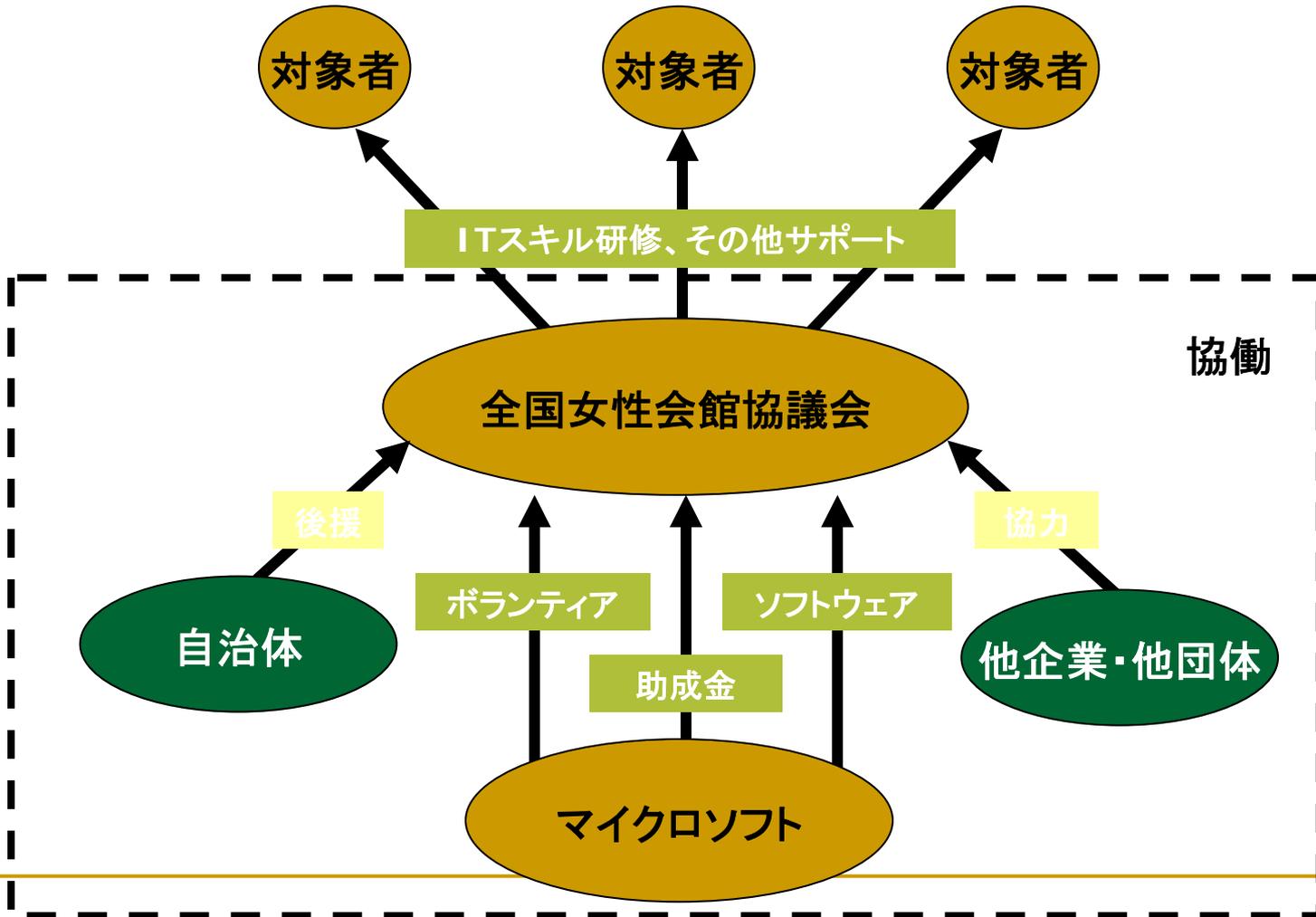
事業名：経済的に困難な状況にある女性のための
パソコン講座

対象者：母子家庭やDVの被害を受けた女性等、
社会的・経済的に困難な状況にある女性

全国女性会館協議会の役割：

中間支援組織として会員館が本事業を実施
することを助成・支援

基本構造



中間支援組織としての協議会

経済的に困難な状況にある女性

↑ 事業実施

各地の女性センター

↑ 助成・支援

全国女性会館協議

↑ 助成・ソフトウェアの提供

マイクロソフト社

事業の目的と 女性関連施設で実施する意味

- 経済的に困難な状況にある女性の経済的自立支援
 - 女性関連施設の、総合施設としての女性の自立支援⇒内なる資源の見直し
 - 女性関連施設の、男女共同参画推進の拠点施設として位置づけの確立⇒地域の社会資源との連携
-

事業実施館と受講者数

事業期間：2006年～2008年

助成館：フェーズ1（2006年1月～2007年6月）

第1期9館／第2期8館

受講者1,741人

フェーズ2（2007年1月～2008年12月）

第3期6館／第4期14館

第4期実施館

もりおか女性センター

秋田県北部男女共同参画センター

埼玉県男女共同参画推進センター

「With Youさいたま」

白井市青少年女性センター

男女平等推進センター「エセナおおた」

上越市男女共同参画推進センター

名古屋市女性会館「イーブネット」

第4期実施館

小牧市まなび創造館

城陽市男女共同参画支援センター

とよなか男女共同参画推進センター「すてっぷ」

尼崎市立女性・勤労婦人センター「トレピエ」

広島県女性総合センター「エソール広島」

こうち男女共同参画センター「ソーレ」

北九州市男女共同参画センター「ムーブ」

事業の特徴

- 一般的な再就職講座、パソコン講座ではない
- 経済的に困難な状況とは
生活保護や児童扶養手当等の受給、シェルターや母子生活支援施設への入居等
- 受講者への理解が不可欠
- 類似事業の経験のない施設でも実施できるよう、
事業をパッケージ化、事前研修の実施
- 継続的实施ができるよう、自治体や地元NPO、
企業等との積極的連携・協働を目指す

事業の構成と予算

1パッケージ:「パソコン講座」+「就労応援フェア」

「パソコン講座」:1人15時間以上×30人以上

3時間×5日、2.5時間×6日

10人×3コース、15人×2コース

「就労応援フェア」:時間等自由、30人以上

1パッケージ:55万円

パソコン講座講師・アシスタント、保育者等へは、
賃金を支払う ⇒ 女性の経済的自立支援

支援の内容

- 1 事業実施のための手引書の開発、提供
- 2 初心者用パソコン講座テキストの開発、提供
(講師用、受講者用)
- 3 事業背景理解のためのブックレットの作成、提供
- 4 事前研修の実施(2時間×8セッション)
事業の概要と目指すもの／事業の特徴と運用上の留意点
豊かな国の女性の貧困／個人情報保護について
社会資源連携マップづくり／パソコン講座の実際と工夫
就労応援フェアの実際と工夫／経験館から学ぶ事業成功のコツ
- 4 実施結果の検証と評価：外部評価機関への委託

就労応援イベント

楽しみ、役立つ時間を過ごすためのイベント

- 内容
- ・模擬面接と履歴書の書き方
 - ・就職情報提供会
 - ・派遣の働き方 & プチ登録会
 - ・先輩からのメッセージ
 - ・ほっとカフェ & アロマセラピー
 - ・フェイスクケア & ポイントメイク
 - ・リサイクルスーツのプレゼント
 - ・子どもひとりのできるごはんづくり 等々

成果評価（第3者評価）

NPO法人パブリックリソースセンター

1 経済的に困難な状況にある女性の自立支援
受講者1,741人（目標1,140人）

集客の不安は杞憂だった

自主財源で追加講座を実施

新たな顧客の発見（他の事業にも）

受講者満足度も高い

「大変満足」33%「満足」67%

「ふつう」「不満」はなし

サクセスストーリー

成果評価 女性センターにとっての成果

- 2 男女共同参画の拠点施設としての基盤強化
 - 施設内資源の見直しと総合的活用
 - 課題解決型ニーズの発見と支援ノウハウの蓄積（困難な状況下の利用者支援）
 - 地域の行政関係機関、企業、NPO等との連携ノウハウの蓄積 ⇒ 地域での施設の周知（拠点施設としての確立）
 - 職員の力量向上

全国女性会館協議会の課題

- NPO化に伴う、直営館の退会
- 活動資金の確保

現在 収入・会費収入

外資系企業の助成

NWECの調査委託費

支出・事務所経費

事務局スタッフ人件費

ブロック会議、全国大会経費